



おかやま環境ネットワーク

NO.61
2011.3

NEWS

発行: (財) おかやま環境ネットワーク
〒700-0026 岡山市北区奉還町1-7-7
TEL/FAX 086-256-2565
E-mail: kankyounet@okayama.coop
HP: http://www.okayama.coop/kankyounet/

環境講座 Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 開催報告

誰でも気軽に環境の基礎を系統的に学べる講座として、全7回シリーズで開催していますが、今回は第3～5回の講義の概要を報告します。

第3回講義は、11月20日『水の流動、循環の実態を理解した水資源の利用』（講師：京都大学名誉教授・奥田節夫氏）をテーマに開催し、23名が参加されました。

地球上にのみ水が水蒸気、液体、氷として安定的に存在していること、水が気圏、水圏、地圏を通じて適当に循環しているから生態系、人間の生存、生産が保証され文明が発展していること、そして、陸水（河川、湖沼、地下水、雪氷）と海洋における水の流れ、水温・水質の説明がされました。

身近な河川のお話では、河川管理は明治以後治水が一番重要視されてきましたが、戦中戦後は利水（農工業用水・都市用水）に重点が置かれ、ごく最近水環境（水質安全確保・生態系保全）が言われるようになったこと、治水と環境保全はどちらも大切であることが図や表を使い丁寧に説明され、参加者の理解がすすみました。

環境問題に取り組むには、子孫に良い環境を伝えようとする「環境倫

理」（理念と実行力が必要）、良い環境を守り育てるための合理的な「科学的手法」（視野の広い学習が必要）、優先順位の選択を確かめながらすすむ「現実的適応性」（社会的教養が必要）の総合的バランスの大切さを強調されました。

第4回講義は、12月18日『土壌とは、人間活動と土壌劣化』（講師：岡山大学名誉教授・足立忠司氏）をテーマに開催し、23名が参加されました。

46億年前地球は誕生しましたが、土壌の誕生は3億数千年前と推定されています。

土壌とは何か？地球は土壌のある唯一の惑星です。土壌には、熟成された無機（土粒子、水、空気）・有機（土壌動物、土壌微生物、落葉や落枝やその分解物としての腐食、生根）が存在し、そのすき間に水と空気を蓄え、土壌中の生きものに生命と活動を支えるしくみを作り出しています。そこに根を張った植物が人間の食料となる有機物を無機物から作り出し、動植物の死後は土壌にすむ微生物が分解してまた無機物になっています。無機物→有機物→無機物の循環の中で人間は生存してきたこ

とから、土壌は人間が生存できる基盤といえます。地球の地殻が深さ5～60kmあるうち、土壌層は0～2mしかありません。

タイでは水があれば生産性の高まる地域の大規模な灌漑で塩性土壌になり、植物が枯死して砂漠化が起きています。人間活動が引き起こした環境問題です。

あらゆる生物の生活の場として重要な役割を果たす土壌のお話でした。

第5回講義は、1月15日『生態系と人間活動～地球1個分のくらしで～』（講師：元岡山大学准教授・白井浩子氏）をテーマに開催し、25名が参加されました。

人間活動の総ては生態系に依存しており、人類が持続するためには「人間活動の総量」を「生態系の能力」より小さくすることが根本条件です。そうでなければ世界は持続できません。

「人間活動の総量」と「生態系の能力」を測定する方法が確立され「エコロジカル・フットプリント（以下EF）」と呼びます。EFではくらしが地球何個分という形で表現でき、世界のEFは1960年では地球0.6個分、1999年では1.3個分となっています。EFを大きくするものはエネルギーと輸送などです。

EFは国による格差が大きく、先進国は超過に大きな責任があります。誰が何を抑制すべきか、EF削減を政策とする政治や経済を求めましょう、人間活動の抑制と公平・公正が人類全体の存続に必須とのお話でした。

No.61の内容

- I. 環境講座開催報告P.1
- II. 寄稿『マン・ウォッチングも忙しい』白井 浩子P.2
- III. 企業会員紹介『サンキョウエンビックス』.....P.3
- IV. 助成活動紹介『家庭の電気ダイエット』.....P.4-5
- V. 生物多様性の日記念ファミリープログラムご案内P.6
- VI. 第1回テーマ別講座「映画上映会ご案内」.....P.7
- VII. 各種ご案内、理事会報告等P.8

白井 浩子 マン・ウォッチングも忙しい



専門が生物の進化学なので、今回もそれにちなんだテーマにします。人間がサルとの共通祖先から分かれてきたことは、今では当然とみなされる考え方となりました。いったい、どういう経緯で今のような人間になったのでしょうか。

古生物学といって、化石を掘り出して、過去の生物がどうであったかを研究する分野があります。進化の根本試料を扱う学問です。哺乳類の初めは、随分小さな四足で、大きな爬虫類の影で、こそそと夜行性で暮らしていたらしいのです。次第に大きいものも現われ、種類も多様になりました。

顔については、イヌやキツネなどをみると、口が突き出ている、口を開くと頭が上下に割れるように見えます。サルは、前から見て平らな「顔面」が出来てきますね。でも、ゴリラやチンパンジーなど、

まだ、眼の辺りよりも口（顎）が前に出ています。上下の顎の骨を噛み合わせる力も大きく出せるのは、それを動かす筋肉がしっかり頭の骨の上の方にまでついていて収縮力を発揮できるからです。堅い食べ物を食べています。次第に、その顎を動かす筋肉の付け根が顎の骨の下の方だけに付くように降りてきて、噛む力も小さくなりました。同時に、顎骨そのものもそんなに大きい必要がなくなり縮退してきて、頭は前から見てまさに「顔面」というのが適切になりました。つまり、イヌの円錐形のように突き出ている顎骨が段々引っ込んでいき、今の人間では、ヘルメットを被る部分と顎部分を合わせて殆ど丸い頭、となりました。それでもまだ下唇の下に、頤（おとがい）が骨として「残って」ありますね。顎は食べ物の変化に連れて、引っ込むという傾向を続けてきました。

古生物学と解剖学は、過去と現在をつないで大変関係の深い学問で、双方の研究者が、未来の人間の頭の形について、あたかもほら、

ムンクの「叫び」という絵があるでしょう、あの、人の顔のように、ラッキョウの細い側を下にしたような、顎の小さな頭になる、と予測しています。なぜなら、ヘルメットの部分は、精神活動を担う脳をカバーするところで、ますます発達し小さくはならず、かたや顎はまだこれからもいっそう噛む力は不要になり骨形成の弱まりは続くから、ということです。

或る形態は生き方全体の中にあって、多くの遺伝子の働きで成っています。不要になるといってもそれらが揃って一度に突然変異でやられることはありません。この間には、父方の遺伝子はやられていても、母方はやられずにあり、元ほど完全ではないが崩れた構造は形成される、というような組み合わせがいろいろ起ります。

電車に座って前に並んでいる人を見る、まだ顎の張った顔もあれば、一足先にすっかりほっそりした顔もあります。マン・ウォッチングするのも、それに至った経緯に思いを馳せるとなかなか頭が忙しいです。

白井 浩子 氏

1943年生まれ。横浜市出身。元・岡山大学教員（生物学）。第14回猿橋賞受賞。現在「余剰進化論」を提唱。(財)おかやま環境ネットワーク理事。

株式会社 サンキョウエンビックス



弊社は、環境管理支援業務及び環境コンサルティング業務をおこなっている会社です。具体的には、工場の煙突の煙や工場から出る排水が公害の基準を満たしているかどうかを見るための測定分析をはじめとし、工場が抱えている環境に対する問題の解決や改善をしていくためのお手伝いをしています。環境問題の解決は、私達だけで対応できない部分もたくさんあります。身近なお客様や社会の要望に対し、勉強しながら更に役立つ会社になりたいと考えています。

今回は、弊社自慢の委員会活動を紹介します。弊社では、『明るく楽しく元気ある職場、笑顔ある

職場』を目指して、3つの委員会を設け、社員中心の活動を実施しています。

1つめは環境委員会です。社内では省エネ・省資源活動を、社外では絶滅危惧種であるダルマガエルの保護活動や児島湖の一斉清掃に参加するなどの取り組みをしています。ダルマガエルは、岡山市の大野地区に多く生息していますが、近年多くのお店が建てられたことによりカエルの住処が少なくなってきています。私たちも店舗の開発に関わっていることから、ダルマガエル保全プロジェクトに参加されている皆様と一緒に保護活動に取り組んでいます。児島湖の清掃は、年1回9月の日曜日に実施されますが、これに全社員が自主的に参加し、ゴムボートを持ち込むなどして頑張っています。



ダルマガエル保全活動

2つめはAP委員会です。この委員会は社内を元気にするイベント等を中心に活動しています。社内の清掃は全員で毎朝、地域（主に町内）の清掃は年に6回程度実施しますが、残業がある人も手を止めてでも実施するようになりました。その他には、社内研究発表会や子供参加OKの社内運動会、お花見など、楽しめる企画を立て

社内の活性化に大きな役割を果たしています。



町内清掃

3つめは、安全衛生委員会です。弊社のテーマでもある『ワークライフバランス』を充実させる上でも、まずは、元気であることです。社員の健康管理や職場の安全対策、避難訓練などに取り組み、また社員の精神的な面での援助プログラム「EAP」という仕組みの導入など、アイデアを盛り込みながら活動しています。

このような社員中心の委員会活動こそが、弊社の持ち味であり、会社の発展の原動力になると思っています。社員の成長やモチベーションアップにも繋がっています。これからも、仕事でも環境関連活動でも、地域社会に貢献できる企業を目指し、委員会活動を続けていきたいと思っています。



分析室

会社概要

設立：1972年2月

資本金：1000万円

代表者：有松修一

社員数：28名

所在地：岡山市南区米倉

ISO9001、ISO/IEC17025、
エコアクション21取得。

関連会社：(株)環境総合研究
機構

【事業内容】

○環境コンサルティング業務

■ISO構築支援、CFP・環境ラベル表示支援

■環境影響評価、作業環境測定、大店立地申請サポート、LCA

■環境情報開示

○環境管理支援業務

■環境調査分析（大気、水質、悪臭、騒音振動）

■土壌汚染調査、その他依頼分析

生活協同組合おかやまコープ 備北エリア (※)

事業名『家庭の電気ダイエットコンクール』

※総社市・吉備中央町・新見市・高梁市を対象エリアとしています。

1. 事業の目的

- ・家庭用電気の使用量削減の取り組みを通じ、環境にやさしい暮らし方の実践や家族ぐるみでのエコ生活への関心を高め、実践する。また、一時的な取り組みでなく、継続をめざす。
- ・電気ダイエットコンクールへの参加を通じて、電気だけでなく、水道、ガス等化石燃料、リサイクルなど家庭でできる環境の取り組みへの理解を広げる。
- ・寄せられたアイデアを広くお知らせし、グリーンコンシューマーを増やす。

2. 事業の取り組み経過

- ・電気使用量の検針日に「9月15日」を含む期間を指定し、電気使用量の削減に取り組んでもらった。
- ・取り組みの評価は、①.前年比世帯一人当たり1日の電気使用量10%以上削減者上位3名を表彰、②.世帯一人当たり1日の電気使用量が少ない上位3名を表彰、③.取り組み内容により「がんばったで賞」3名を表彰とした。
- ・6月～7月にポスター、チラシ、広報紙等で参加を呼びかけ、169世帯が参加した。
- ・参加者には、電気ダイエット

ヒント集や「チャレンジ中」シール等を送付し、取り組みを支援した。

- ・また、取り組み期間中に「励ましハガキ」「報告提出ハガキ」を送り、取り組みを支援した。

3. 結果

- ・報告件数
103/169人 (60.95%)
- ・有効回答
94人 (55.6%)
- ・1日一人当たりダイエット成功者55人 (有効回答中58.5%)
- ・1日一人当たり電気使用量10%以上削減達成者22人 (有効回答中21.4%)
- ・1日一人当たり電気使用量削減前年比ベスト3
 - ①.64.03%
 - ②.73.21%
 - ③.78.31%
- ・世帯人数1人当たり1日電気使用量削減ベスト3
 - ①.0.805kw/h
 - ②.0.966kw/h
 - ③.1.067kw/h

4. 学習イベント

- ・結果報告及び成績優秀者の表彰を兼ねて学習イベントを11月24日(火)に16名の参加で開催した。

- ・NPO法人「おかやまのエネルギーと未来を考える会」の広本理事長を講師に省エネや最近の環境問題について学習した。当日は、「照明の展示」「省エネ診断」も行なった。



学習会

- ・この取り組みを通じて寄せられた電気ダイエットのアイデアや工夫は、今後広報紙を通じて、広く告知をしていく。

5. この活動の成果

- ・報告書提出者の内、表彰基準の「1日一人当たり電気使用量10%以上削減達成者」は22世帯で、この世帯の削減電力量は「1,009kwh」となった。
- ・削減されたCO₂量は『505.51kg』(CO₂係数は中国電力のものを使用)となった。
- ・また、電気使用料金削減効果は、上記対象者の世帯平均では「982円」(単純平均値)となり、電気ダイエットの取り組みが環境はもとより、家計にもやさし

い取り組みとなった。

※ 参考までに、1ヶ月あたりで削減に成功した世帯は55世帯で、報告世帯の58.5%となり、電気ダイエットコンクール等で意識して省エネや削減に取り組むと多くの家庭で効果が見込められると思われる。この世帯の削減電力総量は「2,006kwh」で、削減されたCO₂量は「1005.01kg」となった。ちなみに電気使用料金削減効果は、上記対象者の世帯平均では「1,452円」（単純平均値）となった。



表彰式

<参加者の感想から>

- ・ 家族全員に声かけをして、ひとりひとりに意識してもらい、自分が気がつくことでできることをしてもらいました。結果、ダイエットにはなりませんでしたが、3人の子どもたちも“節約する”という意識が高まり、今後につながって行きそうなので参加してよかったです。
- ・ CMの「つけっぱなし さしっぱなし・・・ぱなしはよくないよ」をヒントに歌いながら楽しみながら実行。小さな積み重ねが大切だと実感しました。
- ・ 今回は減らなかったが、これからも電気だけでなく、あらゆる

ことで環境負荷をかけない生活をしていきたいです。

- ・ 扇風機をうちわにしたり、エアコンのリモコンを隠したりと色々試みたけど去年とくらべあまり下がりませんでした。少し、悲しい。
- ・ 電気ダイエットを楽しくできた。電気を減らさないといけなことはわかっているのですが、それをまわりの人に話すチャンスがなくて困っていました。この取り組みをキッカケに親しくしている友人にも話しができてよかったです。
- ・ ことし、はじめてグリーンカーテンに挑戦しました。意外に涼しくて、来年のためにも種取りもばっちりです。

<まとめとして>

- ・ 家族で省エネのアイデアを出し合い、ちょっとしたことから環境にやさしい暮らしを広げようとする暮らしぶりが報告書からうかがえた。
- ・ 「電気ダイエットをキッカケに環境の取り組みを継続していく」という、うれしい報告も数多くあった。
- ・ 電気ダイエットコンクールは、家庭での電気使用量の削減への取り組みを通じて、電気の削減効果や成果について実感してもらい、環境や省エネについて考える機会を持ってもらうことを目的に取り組み、参加申し込み目標150件、報告100件のいずれも超過し、環境問題への関心の高さや取り組みやすさを反映し

た結果となった。

- ・ 気象条件の影響はあるものの、前年同月比で60%近くの世帯が1人一日当り電気使用量を削減していることは取り組みの大きな成果となり、電気使用量やCO₂削減量などを数値化・視覚化していくことは、各家庭での取り組みの効果成果を実感でき、参加意欲を高めることにつながった。
- ・ 感想にも「家族で話し合い取り組みをすすめた」「子どもたちがすすんで取り組むようになった」「継続して取り組みたい」などの声が寄せられており、取り組みの広がりや継続性に期待がもてるものとなった。

**「海のゆりかご」を守って
環境活動寄付金を県に贈呈**

おかやまコープは「CO・OP洗剤を買って、プチ貢献キャンペーン」で得た協賛金19万9,037円を岡山県が実施する「藻場生態系復元実証事業」に寄付しました。

このキャンペーンは、(株)コープクリーンの協賛により、期間中（2010年5月21日～10月20日）のCO・OP洗剤販売実績に応じた協賛金が各生協指定の寄付先に送られるものです。

昨年12月20日に岡山県庁で行われた寄付金贈呈式では、おかやまコープ平田昌三専務理事から農林水産総合センター三宅文夫所長に寄付金目録が手渡され、三宅所長からは「貴重な寄付金を有効に活用するとともに、この活動を組合員の皆さんに広く知っていただけるよう努めます」とのお言葉をいただきました。



国際生物多様性の日記念

ファミリープログラム

～ 自然にふれあい、楽しんで、地球の未来を考えよう ～

5月22日は『国際生物多様性の日』です。

『国際生物多様性の日』は、生物の多様性が失われつつあること、また、それにまつわる諸問題に対する人々の認知を広めるために国際連合が制定した記念日です。

その前日に牛窓で、自然にふれあい、楽しみながら地球の未来を考えるファミリープログラムを開催します。奮ってご参加ください！

参加者募集 ※下記要項は予定です

お申しいただいた方には、別途詳細案内を郵送します。

- ◆日時：5月21日（土）8時30分～16時30分
- ◆行先：牛窓（岡山県水産研究所 他）
- ◆募集人数：バス40名、現地集合10名
※応募者多数の場合は抽選、参加の可否は郵送にてご連絡します（当選者には詳細案内を郵送します）。
- ◆申込：4月29日（金）までに郵送、ファックス、Eメールのいずれかでお申込ください。
- ◆応募資格：小学生以上の方、小中学生は保護者同伴、大人のみ参加可
- ◆参加費：1人1,000円（年齢・集合場所関係無、地引網代に充当）※昼食持参
- ◆主催：(財)おかやま環境ネットワーク、生活協同組合おかやまコープ、岡山県消費者団体連絡協議会、岡山県生活協同組合連合会



- ◆スケジュール予定（交通事情等により時間は前後する場合があります）
 - ・8:30 バスオルガ出発（受付8:15～、岡山駅西口から徒歩5分）
 - ・現地集合の方 9:45～受付
 - ・10:00 牛窓・岡山県水産研究所視察と学習、昼食後地引網体験、海辺の観察会
 - ・15:00 牛窓出発（現地集合の方解散）
 - ・16:30 オルガ着予定
- ◆持ち物：弁当・筆記用具・レジャーシート等

◇ファミリープログラムの目的：現地での視察や自然と直接触れ合う楽しい体験を通じ、いきものいのちの大切さ、自然環境のすばらしさを実感し、自然の役割や地域（産業）の現状など、くらしと自然環境との関わりを理解し、普段のくらしのあり方の見直しにつなげます。

お申込・お問合せは (財)おかやま環境ネットワーク 〒700-0026 岡山市北区奉還町一丁目7-7

Tel・Fax：086-256-2565 E-mail：kankyounet@okayama.coop ※お預かりした個人情報は本事業以外には使用しません。

切り取り

(財)おかやま環境ネットワーク 生物多様性の日記念ファミリープログラム 参加申込書

代表者	フリガナ 氏名	年齢 歳	電話番号	住所 (〒 -)		集合場所	オルガ ・ 現地
	フリガナ 氏名	年齢 歳	フリガナ 氏名	年齢 歳	フリガナ 氏名	年齢 歳	フリガナ 氏名
	フリガナ 氏名	年齢 歳	フリガナ 氏名	年齢 歳	フリガナ 氏名	年齢 歳	フリガナ 氏名

(財)おかやま環境ネットワーク・テーマ別講座のご案内

映画「ミツバチの羽音と地球の回転」 上映会&鎌仲ひとみ監督トーク

●上映日：4月17日（日）

●時 間：

映画上映 ①10:00～ ②13:40～ ③17:20～
監督トーク①12:25～ ②16:05～ ③19:45～

●会 場：岡山市デジタルミュージアム4F
(岡山市北区駅元町15-1 TEL086-898-3000)

山口県の小さな島、祝島(いわいしま)は千年もつづく伝統の神事「神舞」を守り、生物多様性の宝庫ともいわれる「宝の海」の漁業で暮らしています。しかし、目の前に原子力発電所が建設されることになったのです。「宝の海」は、人々の暮らしはどうなるのでしょうか。これは私たちエネルギーを使うすべての人が考えなくてはいけない問題なのです。

ドキュメンタリー映画「ミツバチの羽音と地球の回転」はこの祝島で生きる人々と、すでにエネルギーの自立と持続可能な社会作りに踏み出しているスウェーデンの人々の物語です。



●入場券：当日1,500円 ※事前申込の場合1,200円

⇒(財)おかやま環境ネットワークへFAX・電話・E-mailのいずれかで

①名前、②電話番号 (E-mail)、③参加上映時間 (10:00、13:40、17:20) を4月15日 (金) までにご連絡ください (入場料は当日受付でお支払いください)。



岡山市デジタルミュージアム
JR岡山駅西口向かい、
リットシティビル南棟4階

- 主催：「ミツバチの羽音と地球の回転」岡山上映実行委員会・(財)おかやま環境ネットワーク
- 後援：岡山市、倉敷市、岡山ESD推進協議会、他
- 協力：岡山市デジタルミュージアム、他



(財)おかやま環境ネットワーク
〒700-0026 岡山市北区奉還町一丁目7-7
Tel・Fax：086-256-2565
E-mail：kankyounet@okayama.coop
HP：http://www.okayama.coop/kankyounet/

気になる数字

もし地球の外から人類を1日観察すると…(環境・循環型社会・生物多様性白書より)

地球に人類が誕生したのは、ついこのあいだと言えます。この数百年であつという間に68億人まで人口を増やしました。1日に約37万人が生まれ、約16万人が亡くなり、差引き毎日約22万人が増えていきます。

人類は淡水を1日150km³ほど使いますが、その大部分で、1日に約800万トンの食料を生産しています。一方でその少なからぬ部分を捨てている事実もあります。

粗鋼を毎日約370万トン生産しています。自動車を1日20万台製造する一方で、古くなった約12万台を廃棄しています。それほど使用しない場合でも自動車は個々に所有しており、所有価値から利用価値への転換は緒についたばかりのようです。また毎日約108万トンの紙を生産しています。

エネルギーの動力利用を覚えたのは、わずか200年前です。100年前には、1日100万バレルの原油しか使っていませんでしたが、今ではその80倍の8000万バレルを使っています。これらの化石燃料などによって電力を1日に65TWh生みだし、二酸化炭素は1日に約8,000万t-CO₂排出しています。

岩石を1日6,000万トンほど採掘し、鉱物資源を消費しています。また、1日約3,500万トンの廃棄物は、この50年で倍増する予測もあります。

熱帯林等を切開き、焼払いにより農地を広げ、ほかの生きものの生息域を奪うことで、個体数を増やし、寿命を伸ばしてきた面があります。その過程で、地球の森林は半分になり、不毛な土地が増え、

1日に100もの種が絶滅しています。

1cmの土壌をつくるのに自然は100年~1,000年かけること、豊かな森林は数千年かけて形成されること、また、枯渇性鉱物資源や豊かな生態系の形成には、天文学的な時間が必要なことを認識する必要があります。この億年の実りを1日で費消してしまうようではいけません。

これまでさまざまな叡智を結集して数々の危機を乗り切ってきた人類ですが、この危機は、うまく乗り切れるのでしょうか。

『ホテル団体交流会』開催のお知らせ

団体あるいは個人でホテルの保護、復活、再生をめざす取り組みの交流をすすめています。

4月23日(土)10~12時、オルガ5階会議室にて開催し、県内各地の取り組みの交流をすすめます。どなたでも参加できます。※参加される際には、資料の準備のため事前にご連絡ください。

『ネットワークのつどい(維持会員総会)』開催のお知らせ

気楽な雰囲気なかで活動や興味関心事について情報交換するつどいを開催します。

これまで出会っていなかった人、団体、取り組みなどとのネットワークをつくり、お互いにつながりましょう!

- ・日時: 6月18日(土) 13~16時
- ・会場: オルガホール
- ・参加申込要(参加費: 無料)
- ※事前にご連絡ください。
- ・内容: 助成団体報告(30分)
総会(理事会報告15分)
交流会(グループディスカッション120分)

2月度理事会報告

2月理事会・評議員会にて、以下の事項が承認されました。

1. 2011年度助成事業応募に対し14団体から応募があり、審査の結果12団体に総額99.6万円を助成します。
2. 『ネットワークのつどい(維持会員総会)』開催要項(オルガホールにて6月18日開催)
3. 2011年度第1回テーマ別講座上映実行委員会との共催企画『映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会と監督トーク』
4. 2010年度事業報告と2011年度事業計画
5. 2011年度予算
6. 新公益法人制度への対応について、移行の方向性として「公益財団法人」をめざすことなどが承認されました。

○公益法人制度対応について

当財団は、2008年12月に施行された公益法人改革関連3法に基づく新制度への対応として、公益財団法人の認定をめざし、2012年度内に申請する方向性を確認しました。

今後、認定申請に向け、機関設計等々の準備を本格化します。

2011年度会費納入振込用紙を同封していますので、4月1日以降にお振り込みくださいますようお願いいたします。



■お問い合わせは
(財)おかやま環境ネットワーク
〒700-0026
岡山市北区奉還町1-7-7
TEL/FAX 086-256-2565

E-mail:kankyounet@okayama.coop
HP:http://www.okayama.coop/kankyounet/

かけがえのない地球、未来のこどもたちへ!